

環境科学部 環境政策・計画学科

Department of ENVIRONMENTAL POLICY AND PLANNING

“環境”で鍛えたチカラは、社会のどこでも通用する。

問題を探せ。
答えを探すな。



様々なプログラムや体験が
世界と向き合うための知見を
広げてくれます。

ミャンマーで生まれ、3歳のときに日本へ。ニュースなどで途上国のいろんな問題に興味を持つようになりました。衛生環境と貧困とのかかわりが深いことを知り、廃棄物について学びたいと考え、たどり着いたのが滋賀県立大学です。受験前、東南アジアの国を巡ってこられた村上先生に直接アポイントを取ってお話を伺い、途上国の廃棄物に関わっていきたくて確信を持てるようになりました。入学後は当学科ならではのフィールドワークをはじめ、環境政策学・社会学・経済学・統計学など多くの専門科目を学ぶことで、文系・理系の枠を超えた知識が身に付き、課題を様々な角度から検討できるようになったと考えています。2年続けて参加した海外交流プログラムでは、途上国の学生との交流やディスカッションなども経験。環境問題への認識も異なることを知り、同時にその地に適した解決策を考えることが最も重要であることを痛感しました。知識や経験を広げるべく大学院へ進学し、その後は海外ボランティアなど国際協力に携わりたくと考えています。

環境科学部 環境政策・計画学科3年生
向井 友理さん / 京都府立亀岡高等学校出身

◆アドミッションポリシー

環境政策・計画学科では、環境と調和した社会を形成するために、社会を形成している企業、政府、市民の行動を環境調和型に変革していく人材を養成します。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

求める学生像

- ①人間社会と自然環境の広い範囲にわたって関心を有する人（興味・関心・意欲）
- ②環境政策や環境計画を学ぶ上で必要な国語・数学・英語・理科・地歴公民の基礎学力を有する人（知識・理解）
- ③見出された問題の解決に向けて論理的に思考できる基礎力を有する人（思考力・判断力）

◆学びのポイント

身近な地域課題から地球規模の環境問題について、文系と理系の多様な視点から総合的に学ぶことを通して、“幅広い視野で物事の見通しを立てることができる人”を育てる学習プログラムにしています。例えば、1回生から専門知識を学べるほか、教員1名につき学生4人程度の少人数の授業が中心で、丁寧な指導を受けられます。また、3回生以降は研究を進めるための研究室や1人1台のパソコンなど、学習環境を整えています。これらによって4年間で一人一人が考える力や社会で求められるスキルを伸ばすことができます。このようなプログラムを通して、具体的な進路を自分自身で設計することができます。そのため、卒業生の進路は公務員、企業の環境部門、環境コンサルタント、起業家、NPO、政治家、研究者などバラエティーに富んでいます。

Point 1 文理を問わず幅広い視野から環境に挑みます

環境政策・計画に関わる科目は、文系と理系の幅広い分野にわたります。文理双方の専門知識と方法論を学ぶことで、実社会で求められる総合的な力が身につきます。

Point 2 現場で役立つ実践的スキルを習得します

卒業後、幅広い分野や職種で活躍するためのデータ分析、マネジメント、場のデザイン、コミュニケーション等、現場で役立つ実践的なスキルが身につきます。また、社会調査士やGIS学術士などの資格を取得できる授業もあります。

Point 3 自分自身で課題を設定し、解決策を提案します

現場でのフィールドワークや行政職員・地域住民などへのヒアリング調査を実践することで実社会の課題を把握します。卒業研究では課題を解決するために社会で役立つ新しい知見を提供します。

◆教員スタッフとその専門分野

- | | |
|----------------------------------|---|
| ● 井手 慎司 教授 水環境管理、土木環境システム、環境影響評価 | ● 林 宰司 准教授 環境経済学、環境政策論 |
| ● 香川 雄一 教授 人文地理学、環境地理学、都市社会地理学 | ● 村上 一真 准教授 開発経済学、環境経済学、行動経済学、地域経済・政策論 |
| ● 金谷 健 教授 廃棄物管理論 | ● 和田 有朗 准教授 環境政策、環境計画、環境システム、地域システム |
| ● 上河原 献二 教授 環境法・環境政策 | ● 白木 裕斗 講師 エネルギーシステム学、環境システム学 |
| ● 高橋 卓也 教授 環境経営、森林政策・計画、資源・環境経済 | ● 平岡 俊一 講師 市民参加・協働、NPO/NGO、環境社会学 |
| ● 瀧 健太郎 准教授 流域政策・計画学、水工学、応用生態工学 | ● 平山 奈央子 講師 湖沼流域ガバナンス、水資源管理、住民参加、意思決定手法 |

◆学びのステップ〈4年間の学習フロー〉



環境政策・計画学科 ってこんなところ

人間社会と環境との関係について、文理融合の立場から学びます。本やネットに頼るのではなく、琵琶湖の流域はもちろん、日本各地の集落や街、外国の水辺や集落、街などにじかに足を運び、そこで生活し、働く人々と対話するところから始めます。「答えを探さず。問題を探せ。」これが、私たちのモットーです。

環境科学部
環境政策・計画学科
香川 雄一 教授



▲島のごみ問題 どうすればいい?(ツバルにて)

〈専門科目の例〉 講義・実習

環境経済学

環境経済学の基礎理論と、その環境政策への応用および、市場メカニズムと環境問題の発生、環境政策の経済的手法、環境の最適利用について学びます。

環境計画学

環境基本法を始め、国内外の環境計画に関する制度や最新の事例を通じ、社会と環境の調和を計画によって実現していくための手法を学びます。

環境法

環境法の対象としている環境問題、仕組み、形成・実施、見直しの過程について学びます。その範囲は、国の法律、自治体の条例、国際的条約を含みます。

廃棄物管理論

廃棄物を適正に管理するために必要な多方面の知識について講義し、受講者は興味ある課題についてグループ作成・調査し、発表します。

GIS演習

GIS(地理情報システム)は自然環境に関するだけでなく人間社会の空間情報を統合的に扱う技術です。この基本を学び、応用力をつけます。

環境マネジメント演習

企業の環境マネジメントに必要なとされるスキルの実践に親しみます。主要問題の特定、解決策の提示・システム化のプロセスを体験します。

◆卒業研究

学生自ら探した「問題」をもとに卒業論文のテーマを決め、そのテーマにあった研究室で担当教員の指導を受けながら、さまざまな調査方法で研究を進めていきます。

研究 その1 カワト文化が残った要因と消えた要因を明らかにしたい!

滋賀県高島市新旭町太田地区では、いまだに多くの家が地下水や川の水を「カワト」と呼ばれる洗い場で使用しています。なぜ、カワトが残ったのか、また、一部の家ではつぶされたのか—それぞれの要因を探りました。

こんな調査をしました
同地区の区長さんとともに、現在でもカワトがある家、かつてはあった家を軒一軒回り、カワトの使用状況や使用目的、カワトをつぶした家にはつぶした理由を対面式で聞いていきました。

◆担当教員
井手 慎司 先生
水環境管理の専門家

研究 その2 廃食油をリサイクルした燃料はもっと増産できない?回収拠点をどこに設置したら回収量が増える?

環境にやさしいリサイクルした燃料。しかし、手間がかかると回収に協力してもらえないし、各家庭に回収にまわるのも費用がかかってしまいます。GISという地理情報システムを使って、どこに回収拠点を設置したら、廃食油の回収量が増えるか研究しました。

こんな調査をしました
回収拠点までの距離がどのくらいなら回収に協力するか、住民にアンケート調査を行いました。

◆担当教員
林 幸司 先生
環境経済学の専門家

研究 その3 森・川・湖、琵琶湖流域に対する住民の評価は良い?悪い?住民評価は専門家の評価や観測データの傾向と同じか?

調査当時、琵琶湖流域の保全計画の見直しが行われていました。見直しにおいて、専門家による評価や観測データの傾向だけでなく、住民の価値観や視点も踏まえる必要があります。そのため、流域の現状に対する住民評価を把握し、課題の整理や今後の政策の在り方について考察しました。

こんな調査をしました
琵琶湖の水質や魚介類、森林や農地の状況、住民活動や管理方法等について、日常生活の中でどのように感じているか、住民に対してアンケート調査を行いました。

◆担当教員
平山 奈央子先生
湖沼保全政策の専門家

社会活動の紹介



地域に飛び込み、そこにしかない魅力を発見・発信
過疎化が進むまちをどうやって活性化していけばいいのか。学生たちは、教室で考えるよりも現場に飛び込みます。農作業を手伝い、地域の伝統に触れ、あたたかな人びとと交流し、そこにしかない魅力を体験。町役場や自治会の力を借りて、地域を応援する壁新聞を作成しました。



※詳しくは(<http://depp-usp.com/>)をご覧ください。

◆進路状況抜粋 (2016~2018年度卒業生)

◆就職先

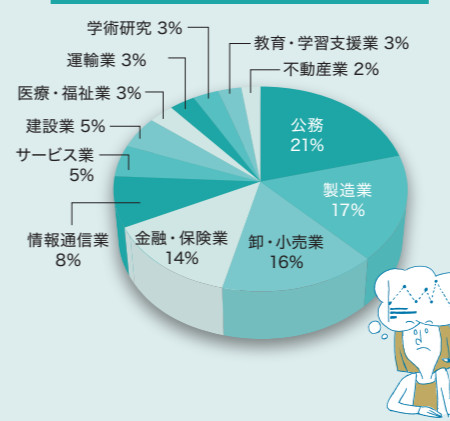
- アイホン(株)
- (株)エイチ・アイ・エス
- (株)関西アーバン銀行
- (株)京都銀行
- 京都信用金庫
- 京都中央信用金庫
- JAグリーン近江
- 新江州(株)
- 総合警備保障(株)
- ティップ(株)
- 東建コーポレーション(株)
- TOWA(株)
- 常盤薬品工業(株)
- トラスコ中山(株)
- 長浜信用金庫
- 西日本旅客鉄道(株)
- 日本製薬(株)
- 日本郵便(株)
- パナソニック(株)
- (株)パナホーム滋賀
- 阪九フェリー(株)
- 富士通(株)
- (株)平和堂
- (株)ベネッセスタイルケア
- 学校法人みえ大橋学園
- (株)村田製作所
- ゆうちょ銀行
- RIZAPグループ(株)
- 愛知県
- 池田市
- 生駒市

- 大津市
- 京都市
- 草津市
- 国土交通省
- 国土交通省近畿地方整備局
- 滋賀県
- 静岡県
- 吹田市
- 大田区(特別区)
- 米原市

◆進学先

- 滋賀県立大学大学院
- 京都大学大学院
- 鳥取大学大学院
- 名古屋大学大学院

2016~2018年度卒業生の業種別就職状況



取得可能な資格一覧※

- 教員免許: 高等学校教諭一種(公民)
- 学芸員資格
- 社会調査士資格
- GIS学術士資格
- 自然再生士補資格
- 地域調査士資格
- 社会福祉士主任任用資格

OB & OG Message

環境政策・計画学科 2016年度卒業
勤務先: 静岡県

大島 和香那さん

「滋賀県における学校ビオトープの継続的な管理・活用」をテーマに、約1年半をかけて卒業研究に取り組んだことが最も印象に残っています。「それは人々にとって本当に問題なのか・明らかにすることで人々の役に立つのか」など、テーマ設定の段階からゼミの先生にたくさんの助言をいただき、現場での取材を重ね、考えを練りあげました。研究が進むにつれ、思考やデータがひとつひとつまとまり、輪郭を描いていく面白さや、製本を経て手渡されたときの達成感や、県大だからこその経験できたことだと思っています。

現在は、静岡県職員として税金の賦課徴収業務に携わっています。仕事で行き詰まるたび、研究中はどうやってその壁を乗り越えてきたのか、思い返すことが度々となくあります。滋賀県大での学びが確かに活かされていると実感できる瞬間です。県の業務は多岐にわたっており、勉強は欠かせませんが、学び続けられる姿勢も県大で身につけた大きな財産のひとつです。いつか静岡県の環境行政に貢献したいと考えています。

(2019年1月現在)

※すべての資格は、大学が定める所定の科目を履修し、単位を修得する必要があります。

CAMPUS LIFE ONE DAY 県大生の一日常

1日のスケジュール

- 8:30 通学
- 9:00 1限: 水環境政策論
- 10:40 2限: 廃棄物管理論
- 12:10 昼休み
- 13:10 3限: 地域調査法演習
- 14:50 4限: レポート課題を実施
- 16:30 5限: 政策計画演習(卒論)
- 18:00 課外活動

1限
水資源管理や琵琶湖の政策について学びます。

3限
地域での調査設計やサンプリングの方法などを実践的に学びます。

5限
テーマを自分自身で決定し、1年半じっくりと卒業研究に取り組みます。

課外
友達と一緒に環境関連のサークルや湖風祭実行委員などの活動を楽しみます。